

報告書

# 2022年自然災害に対する 子どもたちへの緊急・復興支援



Save the Children



提供：学童保育所



提供：保育園



提供：保育園



提供：高等学校





# 皆さまのご協力により 2022年自然災害で被災した子どもたちに さまざまな支援を届けることができました

セーブ・ザ・チルドレンは、地震や台風、集中豪雨などの自然災害による被害に対して、子どもたちが日常性を回復し、災害時においても子どもの権利が守られるために緊急支援活動を行ってきました。2022年も大きな災害が発生する中、私たちは、子どもや子どもを取り巻く環境に大きな影響が出た8月大雨および台風15号への対応として、それぞれ新潟県と静岡県にスタッフを派遣しました。そして、地域の行政や被災した学校、保育園、学童保育などで子どもたちや保護者、地域のニーズを把握し、既存の公的な支援制度ではまかないきれない点を中心に、子どもたちへの支援活動を行いました。緊急時に迅速な対応を行うとともに、被災地が日常に戻るための中長期的な支援活動ができるのも、皆さまのサポートがあってこそです。心から感謝をお伝えするとともに、これまでの支援活動について報告いたします。

※現地へのスタッフの派遣の際は、新型コロナウイルス感染症への対応から、抗原検査など、感染症専門家の助言に基づいた感染予防対策を行ったうえで活動を行いました。



子どもたちに  
支援を  
届けました

8月大雨緊急・復興支援

**697** 人

(大人を含め845人)

※2023年6月

台風15号緊急・復興支援

**698** 人

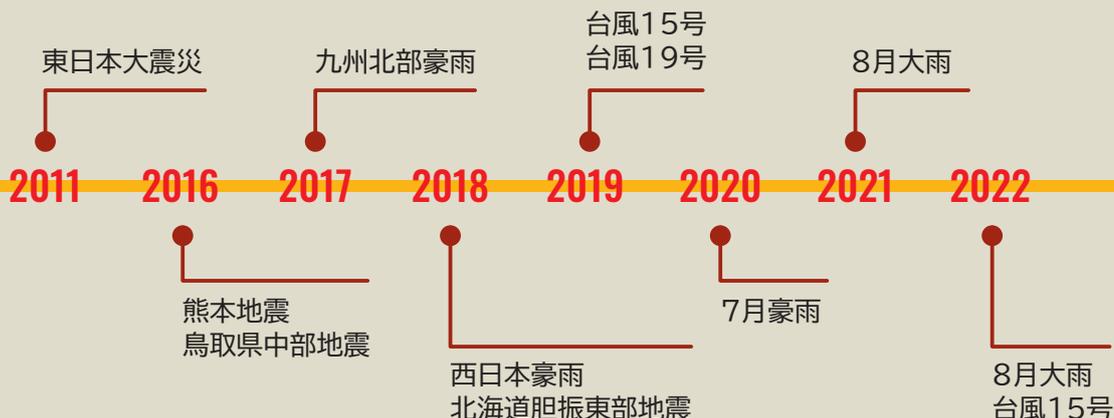
(大人を含め946人)

※2023年6月

## History 国内緊急支援の歴史

セーブ・ザ・チルドレンは、海外だけでなく日本国内でも、2011年の東日本大震災以降、地震や風水害などの自然災害発生後に、緊急・復興支援を行ってきました。

近年、自然災害が頻発する中、2016年熊本地震への緊急・復興支援をはじめ、ほぼ毎年のように災害発生後の現地調査を行い、地域の状況に合わせて必要な支援を子どもたちに届けてきました。2020年7月豪雨や2021年8月大雨の際は、新型コロナウイルス感染症への影響を考慮し、被災地域にスタッフを派遣せず、現地の行政や支援団体と協力しながら、遠隔で支援活動を行いました。



# Activity 主な国内緊急支援の流れ

## 01 災害発生

### 他団体との連携

被害のあった地域行政や関係機関から状況を聞き取るほか、国際支援団体や、内閣府が関わる緊急時の支援調整団体などと連携し情報を収集。

### 情報提供

災害の影響を受けた子どもやその周りの大人に対して、避難生活で役立つ遊びや学び、こころのケアに関する情報をSNSで発信したり、パンフレットを配布。



## 02 災害直後

### 子どもの居場所支援

避難先などでも子どもたちが安心・安全な環境で自分の思うままに遊び・学んだり、友だちと過ごしたりすることで、子どもが日常を取り戻す場（「こどもひろば」）を提供。



## 03 緊急支援

### 施設再開への支援

小中学校、高等学校や特別支援学校のほか、幼保・こども園、放課後等デイサービス、放課後児童クラブ（学童保育）などの子ども関連施設が被災した際に、必要な学用品や備品、施設修繕などを支援。また部活動が再開できるように部活用備品も提供。



### 緊急物資支援

災害発生後、物資が不足する中、特に子どもや子ども関連施設に必要な物資を提供するほか、衛生用品や防犯用ホイッスル、感染症に配慮した遊び道具などが入った緊急子ども用キットを配布。



## 04 復旧・復興支援

### その他

遠足や部活動のための移動支援のほか、セーブ・ザ・チルドレンの協力企業による出前講座や防災講座などを、地域のニーズに合わせて実施。



### 子どものためのPFA

災害や事故などの危機的な出来事に直面した子どもたちが、普段とは異なる反応や行動を示すことがある中、そうした子どもたちのこころを傷つけずに対応するための方法である「子どものための心理的応急処置（子どものためのPFA）」の研修を子ども支援者に実施。



子どものためのPFA

# 8月大雨緊急・復興支援

## 災害概要

2022年8月の記録的な大雨の影響により、東北地方や北陸地方を中心に日本の広い範囲で、河川の氾濫や浸水、土砂災害など、甚大な被害をもたらし、7,000棟以上の住宅が全半壊や浸水被害を受け、2人が亡くなりました(2022年11月内閣府発表)。

セーブ・ザ・チルドレンは、特に深刻な被害が報告された新潟県を中心に、被災した子どもたちへの緊急・復興支援を実施しました。



## 緊急物資支援

関係団体や自治体への聞き取りの結果、被害範囲は局所的であるものの、被害の程度は大きく、ある学童保育では施設が被災し使えなくなったため、小学校の教室を借りて活動を行っていることや、遊び道具の多くも浸水により使えなくなってしまったことなどがわかりました。

そこで、災害の影響を受けた子どもたちが普段に近い状況で遊べるよう、緊急子ども用キット(感染症拡大に配慮した遊び道具、衛生用品、防犯用品、子どもや大人向けの情報提供チラシのセット)や学童保育の活動に必要な絵本やボードゲームといった物品を緊急支援として届けました。



提供：学童保育所



## 学校への備品支援

床上浸水の被害があった小学校では床面の清掃後、学校を再開しましたが、床内部に残った水分によるカビ発生の可能性があり、子どもたちへの健康被害が懸念されたことから、除湿機能のある空気清浄機の支援要請がありました。そのため、セーブ・ザ・チルドレンは、浸水の影響によるカビの発生を抑え、子どもたちが安心・安全な環境で遊び、勉強できるように、必要な教室分の空気清浄機を届けました。設置直後は、朝に電源を入れると昼には空気中の水分がタンクいっぱいになるほどの湿度がありました。

### 先生からの声

空気清浄機のおかげで部屋の湿度が目に見えてわかるうえに、最初は80%ぐらいあった湿度も今は70%から60%に抑えることができているととても安心。

### 子どもからの声

前はじめじめしていたけど、今はすっきりしている。



## 保育園・学童保育への備品支援

浸水被害のあった保育園、学童保育は、使えなくなった家具や遊具を廃棄し、水に浸かった床や壁面を工事するなど再開の準備を行いました。資材の調達に時間がかかり、完全な再開まで1年近い期間を必要としました。セーブ・ザ・チルドレンはその間も定期的に進捗を確認し、再開に合わせて必要な備品や遊具を支援することができました。

### 保育園職員からの声

おままごとの木製キッチンなど高価なあそび道具が浸水してしまい、毎日子どもたちが使うものであるため、衛生的にも心配で困っていたが、新しくすることができて良かった。また、大変な中で、声をかけてもらい、心の負担が軽減し、頼っても良いと感じることができ支えになった。



### 自治体担当者からの声

豪雨で施設が浸水したため、避難先での開設となりました。緊急子ども用キットをはじめ新しい玩具やプレイマット、冷蔵庫など必要なものを迅速に用意していただき大変助かりました。避難が長引く中、児童のストレスを解消するための追加の支援をいただき、職員共々温かい気持ちになりました。本当にありがとうございました。

### 支援まとめ

#### 備品など提供支援

- 新潟県内学童保育所(1ヶ所)： 遊び道具、冷蔵庫、トランポリン、傘立て、マットなど
- 新潟県内保育園(1ヶ所)： 遊び道具、家具など
- 新潟県内小学校(1ヶ所)： 空気清浄機

## 2022年8月大雨会計報告

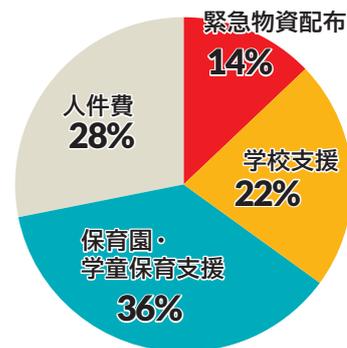
事業費計

**3,321,729円**

(2022年8月～2023年4月)

事業名	金額
緊急物資配布	¥444,981
学校支援	¥737,691
保育園・学童保育支援	¥1,196,078
人件費	¥942,979
合計	¥3,321,729

### 事業費の内訳



※2023年4月末時点

# 台風15号緊急・復興支援

## 災害概要

2022年9月23日に発生した台風15号は、周辺の発達した雨雲によって線状降水帯が発生するなど、東日本太平洋側を中心に記録的な大雨をもたらし、12,000棟以上の住宅が全半壊や浸水被害を受け、3人が亡くなりました(2022年11月内閣府発表)。

台風の影響により静岡県の一部地域では停電や断水が発生し、数日後に解消されましたが、災害による被害が大きい私立保育園や高等学校を中心に支援活動を行いました。



## 保育園への備品支援

被災した子ども関連施設の中でも、公的な支援が届きづらい私立の保育園を回ったところ、多くの保育園では、施設を再開しつつも、浸水して使えなくなった家具や備品を買い足しながら活動していました。そのため、絵本や備品、家電製品など必要な支援を届けました。

### 保育園職員からの声

園を再開したものの、絵本やおもちゃなども浸水し、使えなくなってしまった中、たくさんの絵本や、大型絵本を支援していただき、本当にありがとうございます。

早速、絵本を本棚に並べたところ、園児たちも、「この絵本読みたかった〜!」と、キラキラと目を輝かせてとてもうれしそうでした。



提供：保育園

## 子どものためのPFA

静岡県立こころの医療センター職員を講師として、災害によるストレスを抱えた子どものこころを傷つけずに対応する方法「子どものためのPFA」に関する研修を対面およびオンラインで実施しました。

### 研修受講者からの声

目に見えない心理的なケアについて、難しく考えてしまったり、はれものに触るような思いがあったが、今日のお話を聞いて専門家でない自分たちにできることがあることを知ることができました。



## 子どもの居場所支援

浸水被害の大きかった地域で物資の配布支援を行っている他団体と連携し、保護者が物資を受け取る際に、子どもたちが安心・安全に遊べる居場所づくりを支援し、子どもも大人も自分の時間を持てるようにしました。



## 学校への支援

被災した高等学校では、校舎の浸水被害に加えて部活動に関する被害も大きな状況でした。校舎の修繕は公的な補助制度の対象になるものの部活動の備品は対象外になるため、補填は部員自身の負担になります。そのため、被害が特に大きかったアーチェリー部と郷土芸能に関する部活動の再開に必要な備品の支援を行いました。



### アーチェリー部員からの声

今回の台風で、私たちの弓具や部室は荒れ放題でした。そんな中、皆様からご支援をいただけるという明るいニュースを聞き、安心して部活動が再開できると思い、うれしさと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

### 郷土芸能部員からの声

水に浸かってしまった太鼓の革を張り替えていただき、自分たちの学校の太鼓を使用することができるようになりました。おかげで、学校行事や地域イベントで演奏活動を再開することができました。

## 保育園運営者からの声

少し高台にある保育園ですが、砂場の枠組みは流され、床上浸水で机、絵本、玩具、マット、空気清浄機、書類他、処分せざるを得ない物が多数出ました。セーブ・ザ・チルドレンからの支援の申し出は、不安な思いをした園児、保護者、毎日片づけに追われ心身ともに疲れていた職員に頑張る力を頂きました。本当にありがとうございました。

## 支援まとめ

### 備品など提供支援

- 静岡県内保育園・幼稚園(3ヶ所) : 遊び道具、洗濯機、本棚、絵本、備品、家具など
- 静岡県内高等学校(1ヶ所) : アーチェリー関連用品、工具、太鼓皮張替など

### 子どものためのPFA研修

- 幼保・こども園職員向けオンライン研修、浸水被害のあった地域住民向け対面研修

### 子どもの居場所支援

- 浸水被害のあった地域住民向け

## 2022年台風15号 会計報告

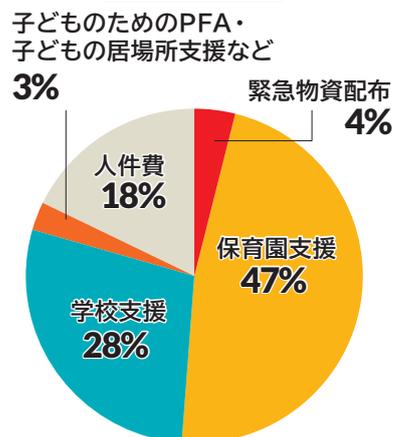
事業費計

**7,277,696円**

(2022年9月~2023年4月)

事業名	金額
緊急物資配布	¥281,350
保育園支援	¥3,441,729
学校支援	¥2,063,945
子どものためのPFA・ 子どもの居場所支援など	¥197,173
人件費	¥1,293,499
合計	¥7,277,696

### 事業費の内訳



※2023年4月末時点



インドネシアの地震・津波被災地における緊急支援

## 自然災害の被災地で、紛争地で――。 世界にはまだ支援を必要としている子どもたちがいます。

危機に備え、未来を守る  
「いのち・みらい貯金箱」で、  
自然災害や人道危機の緊急事態に対応します。

いのち・みらい貯金箱へのご支援にご協力ください

### クレジットカードからの寄付



パソコン  
スマートフォン

パソコン・  
スマートフォンから  
ご寄付いただけます。



いのちみらい貯金箱

検索

### 郵便局(ゆうちょ銀行)からの寄付

郵便振込口座: **00190-8-791030**

加入者名: いのち・みらい貯金箱

※ 備考欄に「いのち・みらい貯金箱」とご記入ください。※ 振込手数料はご負担をお願いしております。※ 領収証ご希望の方は、振込用紙通信欄にその旨ご記入ください。

■ 企業としてのご寄付のご要望・ご相談については、下記までお問い合わせ下さい。 ■ セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのご寄付は、税の控除を受けることができます。

セーブ・ザ・チルドレンは、  
**子どもの権利のパイオニア**として  
100年の歴史を持つ、  
**子ども支援専門の国際組織**です。

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界  
120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・  
非営利の国際組織です。子どもの権利が実  
現された世界を目指し、1919年から活動  
しています。



公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F  
TEL: 03-6859-0070(平日9:30~18:00)  
[www.savechildren.or.jp](http://www.savechildren.or.jp)

2023年7月発行